



国立環境研究所の 地域気候変動適応推進に向けた取組

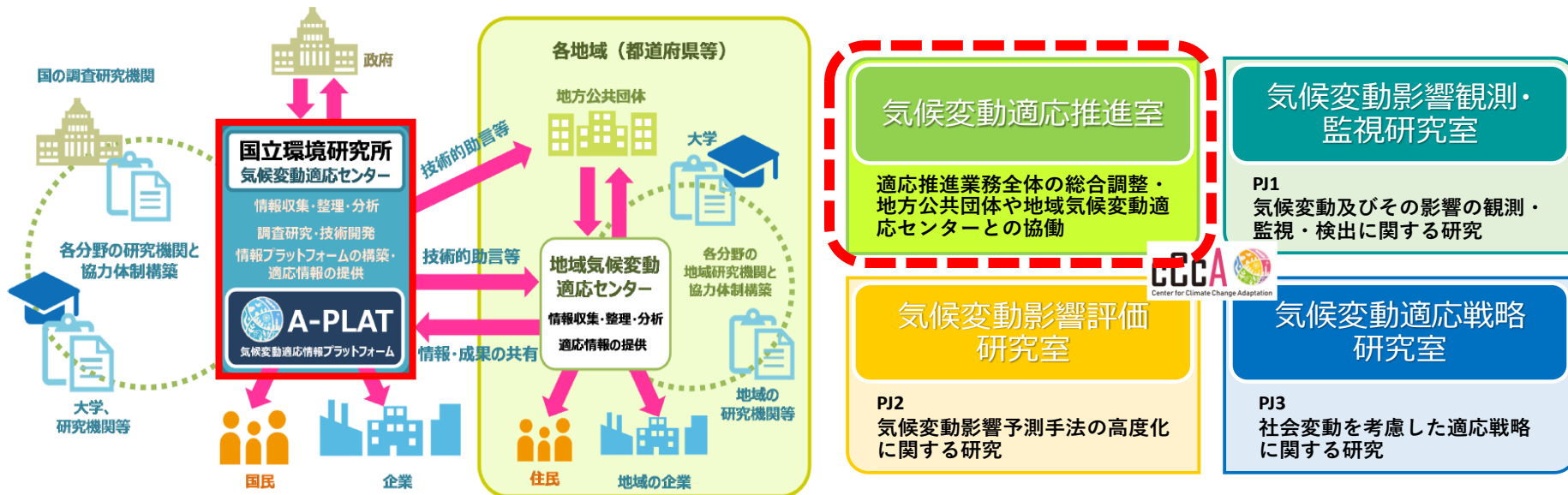
2020年2月22日

国立研究開発法人 国立環境研究所
気候変動適応センター



国立環境研究所 気候変動適応センター

- 気候変動影響及び適応に関する**情報の収集・整理・分析・提供**
 - 地方公共団体・地域気候変動適応センターの気候変動適応に関する取組に対する**技術的助言**
- ⇒ 一体的に実施するための拠点として、**気候変動適応センターを設立**



気候変動適応センターの市町村向け支援

地域気候変動適応センターや地方環境事務所と協力し、地域での気候変動適応推進支援に取り組んでいます

講師派遣

庁内勉強会、市民向け講演会等へ講師を派遣
【今年度】多賀城市、府中市、浜松市、岐阜市、
鹿児島市 他

研修の開催

①地域気候変動適応計画策定・適応策の検討

- ・地方ブロックでの開催
【今年度】東北、中国四国、近畿
- ・県内市町村向け開催
【今年度】秋田県、福岡県、宮崎県

②その他

- ・民間事業者向けシンポジウム
- ・地域の気候変動適応推進に向けた意見交換会
- ・気候変動適応研修（中級コース）

委員就任等

環境審議会等への委員就任
【今年度】川崎市、船橋市、越谷市、千代田区 他

科学的知見の提供、助言等

- ・気候変動予測及び影響評価に係る科学的知見の提供
- ・地域気候変動適応計画やパンフレット等への助言 等



気候変動の観測・予測データ



計画策定マニュアル

普及・啓発への支援

- ・普及・啓発物に使用するイラストの提供 等



支援メニューの検討（要望を整理）

No	分類	支援ニーズ	No	分類	支援ニーズ
1	研 修	気候変動に関する一般的な知識についての研修	20	科 学 的 知 見 の 取 集	他の省庁の適応関連の動きや発信される情報の提供
2		計画策定等の自治体を支援するための研修	21		影響予測データの提供
3		地域適応Cや自治体が情報共有するための場の提供	22		気象や影響の観測データの提供
4		地域適応Cで働く人材の紹介（コーディネーター等）	23		経済的な評価や被害額に関する情報の提供
5	研 究 支 援	地域適応Cが参加できる研究制度	24		地域ごとの影響についての情報の収集と提供
6		推進費申請時の支援	25		影響情報収集への支援
7		地域において連携できる研究機関の紹介	26		アンケート調査の際の事例やフォーマットの提供
8	活 動 支 援	地域適応Cの期待される業務の例示	27		地域で実施可能な適応策の検討
9		情報収集や資料作成時の相談（Q&A作成）	28	共同Web-GISソフト、マニュアル提供	
10		用語集、地域での研究プロジェクトの事例、調査や研究に必要なとなる専門的な知識や情報の提供（将来予測に必要な知識・設備・時間・費用、その説明の仕方等）	29	市民参加型情報収集用アナログデータの自動デジタル化支援	
11		よりわかりやすいデータ処理等に的を絞った研修	30	市民参加型情報収集用生物種類の同定作業省力化への支援	
12		地域適応C業務推進における注意事項の明示	31	市民参加型情報収集用携帯電話等での情報収集の仕組みづくりへの支援	
13		他の地域適応Cの取組み事例の共有、地域適応Cと自治体との連携強化への支援、部局間連携の強化への支援	32	地域ごとの気候変動や影響情報の発信の仕組みづくりへの支	
14		地域適応C間のネットワークの強化への支援	33	気象情報の高密度データベース共有の仕組みづくりへの支援	
15		過去の適応業務担当者からのと知見や教訓の継承への支援	34	Webページ開設への支援	
16		地域Cの代表的業務のフローチャート化・パターン化	35	パンフレットのフォーマット提供	
17		空間スケール別の適応策と想定実施主体の整理	36	市区町村レベルの自治体の適応計画策定への支援	
18	緩和策との連携例の整理	37	過去の気象データの整理の支援		
19	基礎自治体設置地域適応Cの役割整理	38	資 料 作 成	気候変動に関する一般的な知識提供用資料やツールの開発	
		39		一般人、企業、庁内、農協組合等向け資料の作成	
		40		気候変動の影響関連の写真やイラスト等の素材の収集・提供	
		41		小学生が自由研究として扱える事例の提供	
		42		研修等の内容のWeb発信	

※網掛けした部分はA-PLAT等を通じ、既に支援開始しているメニュー。



HOME > 地域の適応 > 地域支援
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/jichitai/support/index.html>

地域支援



地域の適応推進を強化することを目的に、支援メニューを整理して適宜更新していきます。

01 科学的知見の収集・整理

地域で気候変動影響や適応についての科学的知見を収集・整理するにあたり、将来予測データや関連する情報、情報収集時の参考資料などをご覧ください。



02 地域適応計画策定・適応策の検討

地域適応計画や適応策を策定または策定支援を行うにあたり、策定を支援するツールや既存の事例などをご覧ください。

03 普及啓発、ステークホルダーへの情報提供

地域住民や事業者への情報提供を行うにあたり、利用可能な講演資料の雛形や写真・イラスト素材などをご覧ください。



04 地域適応センターの運営

センターの運営全般にあたり、Webやパンフレット作成時の参考資料や運営における注意事項などをご覧ください。



地方公共団体等に期待される業務の具体事例に対して、国環研が提供できる支援メニューを紐づけ、「支援メニュー一覧」として掲載。

1. 科学的知見の収集・整理

適応に関する知見の収集

- ・ 気候変動適応とは
- ・ e-ラーニング
- ・ 気候変動適応用語集

観測・予測データの収集

- ・ 気候変動の観測・予測データ
- ・ 将来予測（WebGIS）の指標
- ・ 様々な観測データ
- ・ 経済的な評価に関する研究成果/マニュアル
- ・ 気候変動影響観測・影響予測の研究成果

関連情報の収集

- ・ 政府の取組
- ・ 関係省庁等の適応に関する取組
- ・ 関連統計データ
- ・ 地域ブロック・分野別の研究成果

2. 地域適応計画策定・適応策の検討

地域適応計画の策定

- ・ 地域気候変動適応計画一覧
- ・ 適応策事例集
- ・ 計画策定マニュアル
- ・ 地域気候変動適応計画オート出力機能
- ・ 地域ごとの影響情報の収集

適応策の検討

- ・ 適応に関する情報一覧
- ・ 適応策データベース

関連情報の収集

- ・ 都道府県別情報検索プログラム
- ・ アンケート調査実施時の参考資料
- ・ インタビュー
- ・ 地域適応コンソーシアム事業、気候変動適応広域協議会

3. 普及啓発、ステークホルダーへの情報提供

プレゼンテーション資料の作成

- ・ プレゼンテーション支援（ガイドブック、スライド集）
- ・ 庁内関係者、事業者、一般向けプレゼンテーション

普及啓発の取組み

- ・ 普及啓発等に使える図表・イラスト一覧
- ・ 環境学習・自由研究素材一覧
- ・ 住民参加型の情報収集
- ・ GIS を用いた情報発信
- ・ ステークホルダーとの連携

関連情報の収集

- ・ 個人の適応
- ・ 事業者の適応

4. 地域適応センターの運営

センター運営に関する情報収集

- ・ 地域気候変動適応センター一覧
- ・ 活動内容に関する注意事項
- ・ 組織紹介用パンフレットの雛形
- ・ ウェブサイト開設ツール

HOME > 地域の適応 > 地域支援 > 普及啓発、ステークホルダーへの情報提供 > プレゼンテーション支援(ガイドブック、スライド集)

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/jichitai/support/guidebook.html>

地方公共団体職員の方が、講演や話題提供を行う際の参考となるガイドブックを提供しています。前頁のプレゼンテーション資料と連動しており、スライドの見方やテーマの選び方、対象者別のプログラム例などを紹介しています。

CONTENTS

はじめに

1.スライド集の概要について

- (1) スライド集の概要
 - ① 一般向け資料
 - ② 自治体・企業向け資料
- (2) パワーポイントのスライドの見方

2.プレゼンテーションの構成

- (1) プレゼンテーション準備時の検討事項
- (2) テーマの選び方
- (3) 一般向けプログラムの例【30分】
- (4) 一般向けプログラムの例【60分】
- (5) 自治体職員（環境部局）向けプログラムの例【30分】
- (6) 自治体職員（環境部局）向けプログラムの例【60分】
- (7) 自治体職員（全部局）向けプログラムの例【40分】
- (8) 企業向けプログラムの例【20分】
- (9) 企業向けプログラムの例【40分】
- (10) 利用上の留意点

3.さらなるプログラムの充実に向けて

(2) パワーポイントのスライドの見方

提供するスライド集には、各スライドのほか、ノート部分に進行例や、地域特性や場面に合わせたスライドのアレンジ例、参考情報を記載しています。

各講演での原稿作成やスライドの加工などにご活用ください。



「地域カスタム」と記載のスライドは地域ごとの変更が必要なスライドです。ノートを参考に、情報や図表、コメントの差し替えをお願いします。

地域ごとのグラフ等を差し替えた場合には、説明したいポイントなどを赤枠などで強調すると、説明しやすく、かつ参加者に伝わりやすくなります。

【リード】には、説明文の例が記載されています。プレゼンテーションの場面や対象者に合わせて説明文のアレンジをしてください。

情報の差し替えが必要な場合には、差し替え方法が記載されています。

参考情報や出典、スライドに出てくる用語の解説などが記載されています。プレゼンテーションの場面によっては、用語をより分かりやすく説明したり、補足し

【リード】
最後に○○県の気象に関する観測結果をみてほしいと思います。
ここでは、「気温」「降水量」「真夏日」が記載されています。

【○○県の観測結果】
※以下、参考資料の図やグラフを用いて、地域の気象に関する観測結果についてのページを作成します。
※その際、図表にわたる変化傾向などのみならず、これまでの観測結果についてのコメントを作成しましょう。

【参考資料】
気象庁HP：日本の各地域ごとの気候の変化
https://www.data.jma.go.jp/gp/dm/fv/gw_portal/region_climate_change.html

気象庁HP：地球温暖化予測情報第9報
<https://www.data.jma.go.jp/gp/dm/fv/GWP/index.html>

HOME > 地域の適応 > 地域支援 > 普及啓発、ステークホルダーへの情報提供 > プレゼンテーション支援(ガイドブック、スライド集)
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/jichitai/support/guidebook.html>

自治体職員の方が、講演や話題提供等で使用できるプレゼンテーション資料のひな形を提供しています。
 「一般向け」と「自治体・企業向け」の2種類のスライド集があり、必要なページを抜粋、順番を変更、別資料と組み合わせるなどして、目的にあったプレゼンテーション資料を作成できます。

CLIMATE CHANGE ADAPTATION PLATFORM 7. 企業の気候変動適応

TCFD設立経緯

- 2015年12月、金融安定理事会（FSB）が「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」を設置
- 2017年6月、企業の気候変動リスク等に関する情報開示について提言

⇒事業活動における、気候変動の「リスク」及び「機会」の財務的影響を個々の企業が把握し、年次財務報告書等を通じて開示していく

CLIMATE CHANGE ADAPTATION PLATFORM 5. 気候変動への適応

「適応」とは？

- 気候変動の影響が現れるのをただ待つだけでなく、**社会や生活のあり方を変えて、影響に備える**
- ⇒高温に強い農作物の開発、災害から身を守る備え、熱中症の予防など

農林水産業

現状・将来予測

品質低下 収穫低下

高温耐性品種への選抜
自給時期の調整

品質低下防止のためのよけ設備

コメ（白米熟粒） リンゴ（白桃付）

その他にも様々な農産物に影響が現れています。

産業・経済活動

現状・将来予測

事業継続計画（BCP[®]）の策定

生産設備などへの影響

レジャー・観光などへの影響

災害時多言語支援

企業にとっては、社会に役立つ
新たなビジネスの開拓など、
 潜在的な要素も秘めている

出典：環境省

CLIMATE CHANGE ADAPTATION PLATFORM ① 農業、森林・林業、水産業

必要と考えられる主な適応策

分類	適応
水稲	・ 高温に耐性のある品種の開発・普及 ・ 肥培管理、水管理等の基本技術の徹底
野菜	・ 高温に耐性のある品種の開発・普及 ・ 適正な品種選択、栽培時期の調整
果樹	・ 優良着色系統や黄緑色系統の導入 ・ 高温に耐性のある品種への転換
麦、大豆、飼料作物等	
畜産	
病害虫・雑草	
農業生産基盤	

出典：環境省 気候変動適応計画（2019）

CLIMATE CHANGE ADAPTATION PLATFORM 4. 気候変動影響

事例カスタム

既に現れている果物への影響

- ぶどうでは、着色期（7～9月）における高温により、東日本、西日本の広い範囲で、**着色不良・着色遅延**の発生が報告
- りんごでは、果実肥大期の高温による影響として、**日焼け果、虫害の多発**（ハダニ類の発生、シクイムシ類による食害）の報告




高温による着色障害 日焼けした症状

出典：農林水産省 平成30年経産部経産計画報告書レポート（https://www.maff.go.jp/j/saisan/sankyo/condanku/attach/pdf/report_47.pdf） 47

【リード】
 果樹への影響としては、高温による着色不良や日焼け果などの発生が報告されており、これらは商品化率や商品価値の低下につながります。

【①農業、森林・林業、水産業】
 ・ ぶどうでは、着色期（7～9月）における高温により、東日本、西日本の広い範囲で、着色不良・着色遅延の発生が報告されています。

・ りんごでは、果実肥大期の高温による影響として、日焼け果、ハダニ類の発生、シクイムシ類による食害など虫害が多発しているとの報告もあります。

HOME > 地域の適応 > 地域支援 > 科学的知見の収集・整理 > 気候変動影響観測・影響予測の研究成果
https://adaptation-platform.nies.go.jp/jichitai/support/observation_projection.html

気候変動影響の観測・予測に係る様々な研究成果を整理しています。各地域における適応を検討する際、関連する研究成果を見つけるきっかけとしていただけます。

○影響予測に関する国等の研究プロジェクトについて（2020年3月時点）イメージ（計20論文）

分野	大項目	小項目	研究プロジェクトのタイトル	代表研究者	研究内容
農業・林業・水産業	農業	水稻	わが国における温暖化のコメ等穀物生産への影響と適応策（S-8）	石郷岡康史 （農業環境技術研究所）	地域ごとのコメ生産に関する詳細な統計データや水田水利用および水管理に関するデータ、および高解像度気象メッシュデータと土地利用データを整理する。また、気象、農業統計、地理情報データに基づき、コメおよびコメ以外の作物生産に関する影響評価モデルのプロトタイプを構築する。さらに、複数の気候モデル予測の不確実性を考慮に入れたより高度な評価手法により、穀物生産の広域的で確率的な影響予測と影響軽減のための方策が実施された場合の効果を評価する。

○影響予測に関する学術研究論文について（2020年3月時点）イメージ（計109論文）

分野	大項目	小項目	論文名称	発行年	執筆者	研究内容	検索方法	全文表示
農業・林業・水産業	農業	水稻	気候変動が日本の水資源に与える影響推計（II）-水需給・米生産変化と適応策-	2013年	小槻峻司（京都大学大学院）ら	提案する日本全域水資源モデルと、超高解像度GCMを用いて、気候変動が日本の水資源に与える影響を推計した。温暖化が米収量に与える影響を推計した結果、北・東・中日本では収量が増加するが、西日本では逆に減少する傾向が見られた。適応策として移植日の変化を検討したところ、北日本・西日本では移植遅延化により収量増加を見込めることを示した。	検索結果の中から、論文そのもの（J-STAGE中）を選択	○

HOME > 地域の適応 > 地域支援 > 科学的知見の収集・整理 > 地域ブロック・分野別の研究成果
https://adaptation-platform.nies.go.jp/jichitai/support/local_research.html

地域ブロック・分野別に、気象情報や気候変動の影響に関する研究を整理しています。例えば、地域特性を踏まえた適応を検討する際、関連する研究成果を見つけるきっかけとしていただけます。

○地域ブロックごとの分野別影響等に関する研究論文マトリックス（2020年3月時点）

		北海道・東北	関東	中部	近畿
農 林 水 産 業	水 稲	温暖化後の北海道でコシヒカリは栽培できるか	千葉県における近年の気温推移と水稲の乾物生産、収量及び玄米外観品質との関係	愛知県における水稲品種コシヒカリの外観品質低下要因及びその対策について	兵庫県における酒米「錦」の玄米品質と気
		北海道におけるイネの生産性および冷害評価に関する研究		2010年の夏季高温が北陸地域を中心にしたコシヒカリの品質に与えた影響	
		生育ステージと温度履歴を考慮した東北地方における水稲の障害型冷害リスクマップ		長野県における登熟期間の気象条件と栄養生理の差異が白未熟粒発生に及ぼす影響	
		山形県における1980年以降の気象推移が最高分げつ期のイネ生育に与える影響			
		岩手県の水稲における登熟期間前期の気象条件が登熟に与える影響			

① 市民参加型情報収集用の携帯電話等での情報収集の仕組み

② 地域ごとの気候変動や影響情報の発信の仕組み

セミ分布調査

長野県のセミ分布

長野県内のセミの分布記録

確認した日時

yyyy/mm/dd h:mm

セミの種類

-選択してください-

判別の方法

鳴き声

姿げから

成虫目撃

確認した場所

ヒント: この位置は現在位置を使用します。押して航行します。

シオメトリが取得されていません。

夏鳥の初認・初鳴き調査

夏鳥の初認・初鳴き調査

調査の説明コンテンツ

種名

<input type="checkbox"/> ジュウイチ	<input type="checkbox"/> ホトトギス	<input type="checkbox"/> ツツドリ
<input type="checkbox"/> カッコウ	<input type="checkbox"/> サンショウクイ	<input type="checkbox"/> ヒバリ
<input type="checkbox"/> ツバメ	<input type="checkbox"/> イワツバメ	<input type="checkbox"/> ウグイス
<input type="checkbox"/> ヤブサメ	<input type="checkbox"/> センダイムシクイ	<input type="checkbox"/> オオヨシキリ
<input type="checkbox"/> コムクドリ	<input type="checkbox"/> クロツグミ	<input type="checkbox"/> キビタキ
<input type="checkbox"/> オオルリ		

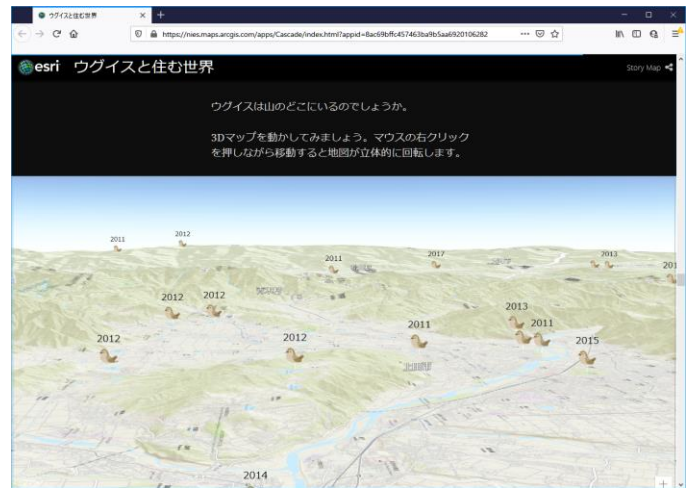
観察場所

緯度: 36.61476 経度: 138.18122

観察日

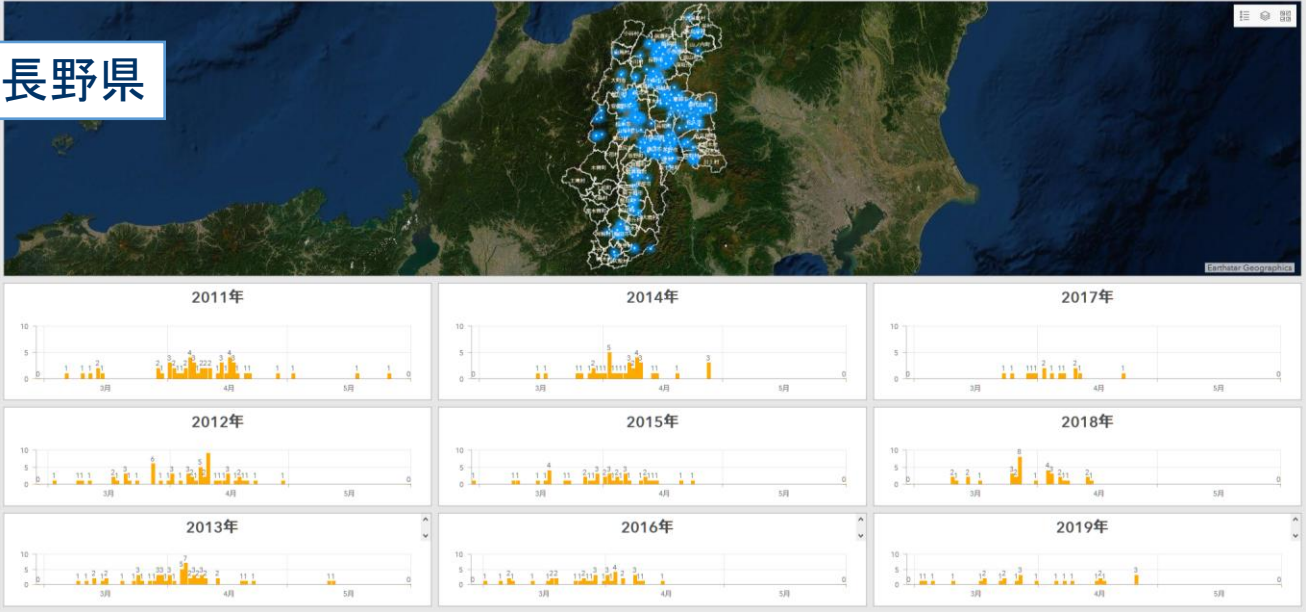
yyyy/mm/dd

長野県

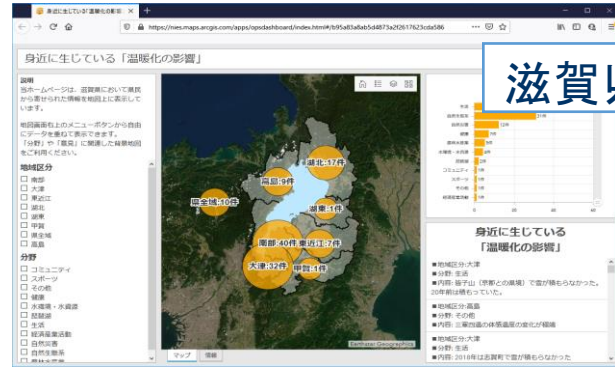


③収集したデータに基づくグラフ作成や集計による可視化ツール

長野県



茨城県



滋賀県

分野ごとの適応策の可視化（インフォグラフィック）

気候変動の影響と適応策

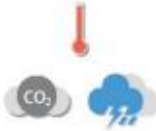
田 水稻

農業・林業・水産業分野 | 農業

作成中

影響の要因

気温の上昇、CO₂ 濃度の上昇、強雨の増加、降水量の減少など様々な要因により、水稻の収量や品質に影響を受ける地域が多い。

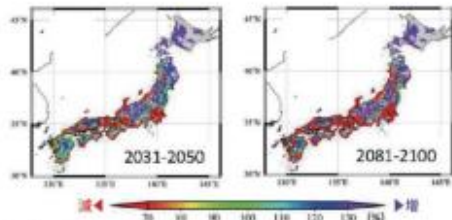


現在の状況と将来予測

現在、全国で品質への影響が出ているほか、一部地域では収量減少などの影響が生じている。特に、気温の上昇による品質の低下が最大の影響で、白米熟粒や割粒粒の発生による一等米比率の低下などの影響が生じている。



将来、コメ収量は全国的に今世紀半ば頃までは全体として増加傾向にあるものの、21世紀末には減少に転じるほか、品質に関して高温リスクを受けやすいコメの割合が特にRCP8.5シナリオで著しく増加することが予測されている。



登熟期の高温リスクが小さいコメ (Class A) の収量の変化率分布 (適応策をとらない場合の20年平均)

出典：Y.Ishigooka et al. (2017)、環境省他 (2018)

適応策

気温の上昇に対する適応策として、栽培時期の変更など作物が高温に曝される事を回避する方法、管理方法の改善や品種の転換など作物の高温に対する耐性を高める方法、病害虫の防止など気候変動により増加する病害や害虫を防ぐ方法に大別できる。



気候変動適応法に基づいて位置付けられた地域適応計画にて明示される適応策を事例集として集約し提供。新たに計画を策定する際や適応策の検討時の参考資料（作成中）。

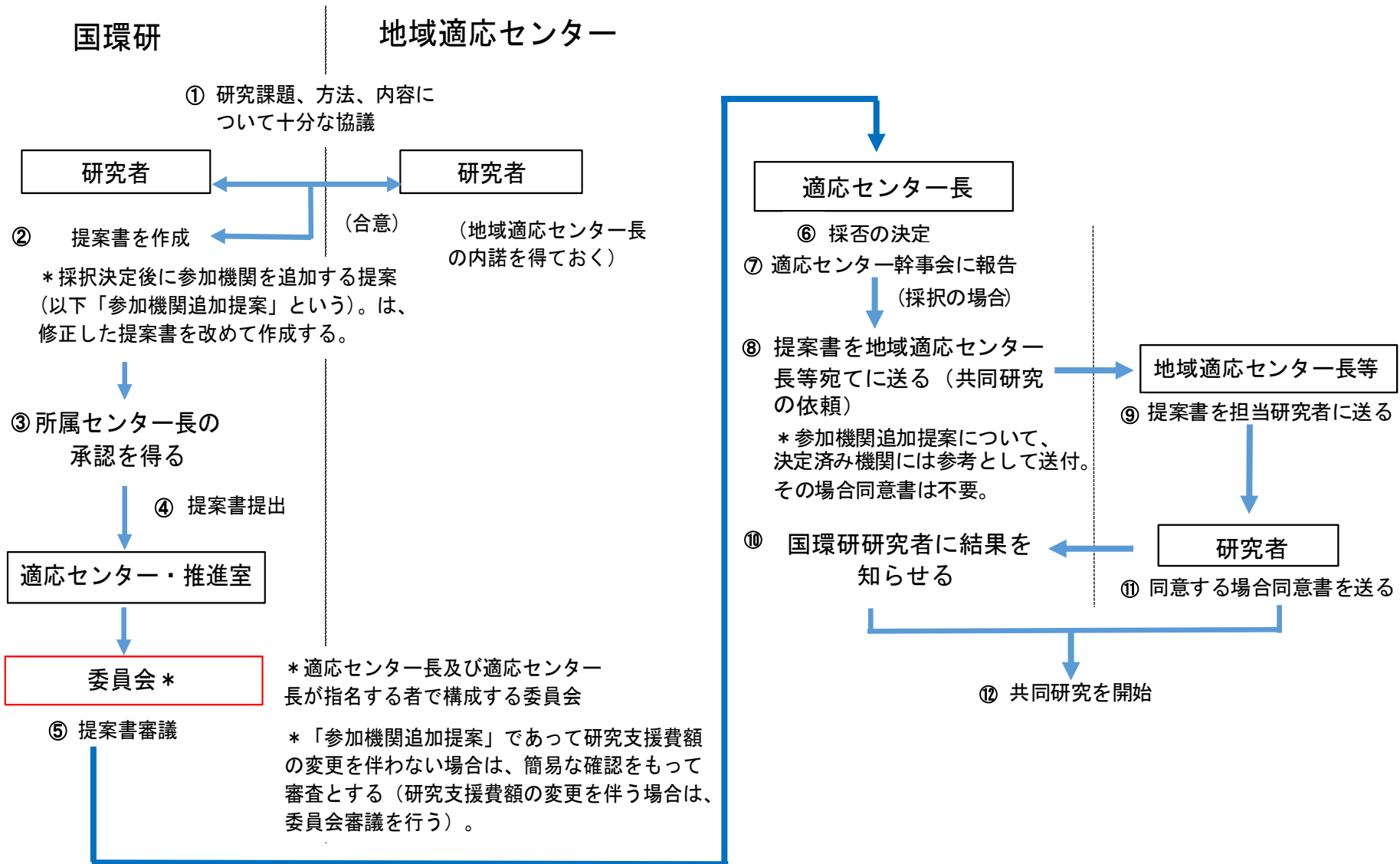
分野	大項目	小項目	適応策カテゴリ	取組内容
全般	全般	全般	教育	学校教育で活用可能な副読本の作成
全般	全般	全般	教育	周知啓発活動を担う人材の育成
農業、森林・林業、水産業	農業	野菜	品種改良	高温に強い品種の開発や施設内の栽培環境を改善する技術
農業、森林・林業、水産業	農業	野菜	品種改良	施設園芸での高温対策技術導入、高温障害に強い品種への
農業、森林・林業、水産業	農業	野菜	品種改良	耐暑性品種や低温要求量の少ない品種の導入検討
自然災害・沿岸域	沿岸	高潮・高波	調査研究	海岸に関する取組み：（災害リスクの評価と災害リスクに スクの高い箇所の把握と災害リスクの明確化を行うための
自然災害・沿岸域	沿岸	高潮・高波	ハザードマップ	高潮氾濫から人命を守るため、高潮で浸水が想定される区
自然災害・沿岸域	沿岸	高潮・高波	ハザードマップ	海面上昇や台風の強度の増大等による高潮・高波が懸念さ 整備を行うほか、水防法改正に対応し、想定し得る最大規 指定及び水位情報の提供等のソフト対策に取り組みます。
自然災害・沿岸域	沿岸	高潮・高波	ハザードマップ	<ソフト対策>最大クラスの高潮による浸水想定区域図を との連携や支援により、ハザードマップや避難勧告発令の とともに、災害リスクに対する住民理解の促進を図る。

進捗管理 & 優先度付けに関する事例集

地域適応計画内の進捗管理および優先度づけに関する事例集として集約し提供。
新たに計画を策定する際の参考資料。

計画名	策定(改訂)年月	URL	(2)進捗管理	
			定量的な目標	進捗管理の方法
北海道気候変動適応計画	令和2年3月	http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/tot/saisyuu/tekioukeikakuzenbu.pdf		<p>国では、現在、「適応」の取組に係る進捗状況の把握・評価手法の開発に向けて検討を進めており、この結果を踏まえ、本計画における手法を検討することとします。当面は、本章で掲げた4つの基本方向に基づき取組を推進するとともに、関連施策等について、定期的な実施状況等を把握し、取りまとめることとします。</p> <p>4つの基本方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本道の強みを活かす適応の取組の推進 ・情報や知見の収集と適応策の検討 ・道民・事業者等の理解・取組の促進 ・推進体制の充実・強化
川崎市地球温暖化対策推進基本計画	平成30年3月	https://www.city.kawasaki.jp/300/cmsfiles/contents/0000092/92540/kihonkeikakuweb.pdf		<p>地球温暖化対策を着実に推進していくためには、基本計画に定める地球温暖化対策の目標及び基本的方向について適切な進捗管理を行うとともに、その達成状況等について市民・事業者・行政の各主体の間で共有していく必要がある。また、実施計画に定める定量的・定性的な活動量などの目標についても適切に進捗管理を行っていく必要がある。</p> <p>このため、基本計画に定める地球温暖化対策の目標、さらには実施計画の目標について、PDC Aサイクルを基本とした進捗管理を行う。</p> <p>毎年度、温室効果ガス排出量の推計を実施し、各種指標や具体的な取組結果を取りまとめ、川崎市地球温暖化対策推進計画年次報告書を作成、公表する。</p>

共同研究（適応型）：応募スキーム



共同研究（適応型）：今年度の取組内容

	課題名	参加機関
1	適応推進に資する科学情報提供に向けた共創プラットフォームの構築	長野県環境保全研究所
2	気候変動による暑熱・健康等への影響に関する研究	香川県、川崎市、 静岡県、福岡県の各地域気候変動適応センター
3	気候変動影響検出を目的としたモニタリング体制の構築	長野県環境保全研究所 静岡県環境衛生科学研究所
4	気候変動と都市化による河川の水温・水質への影響	千葉県環境研究センター
5	日本各地の自然湖沼における気候変動影響の観測と影響評価	参加機関調整中（北海道、秋田県、茨城県、滋賀県、鹿児島県を予定）

国の研究機関等の連携強化

「気候変動適応に関する研究機関連絡会議」を設置（2020.3）

- 適応に関する取り組みの共有・連携の強化
- より効果的な情報発信・提供に向けた取り組み
- 実務者の適応研究連携の推進に役立つ場の設定

6月

- 実務者会合により「気候変動適応の研究会」を合意

10～12月

- 適応研究会（3回）開催
- 各機関の取組の共有
- 今後の連携方策を議論



学際的研究、学会を目指して



担当窓口の設置（お気軽にご相談ください！）

国立環境研究所 気候変動適応センター

気候変動適応
推進室

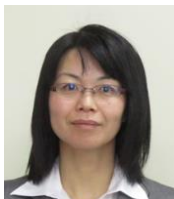
気候変動適応
戦略研究室

気候変動影響
評価研究室

気候変動影響観
測・監視研究室

西日本担当

（中部、近畿、中国四国、九州・沖縄）



浅野



砂川



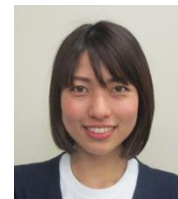
田中



大山



岩渕



根本



北畠

東日本担当

（北海道、東北、関東）

地域適応センター

（全国）

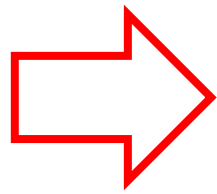
お問い合わせ先(共通)

電話番号：029-850-2475 / メール：a-plat@nies.go.jp

まとめ

地域気候変動適応計画の策定に向けて…。

- 適応策を考えるのには、影響予測もいるし難しい話で対応できる人材もない。
- 地域で取り組むのは困難では？



地域のことは地域が主体的に進めなければ実情にあった効果的な取組とはなりません。技術的に難しいところは何でも国立環境研究所にご相談ください。

- その地域の詳細な状況、地域が大事にしていること、必要なことは、その地域の方でなければわかりません。
- 計画し取組を進めていく上では、地域の状況に合わせて、様々な視点から取り組まないと効果がでませんので、地域の主体的な取り組みが重要です。
- 適応策の検討・実施に必要な知識や情報は国立環境研究所がサポートします。